

取手市長が気候非常事態宣言について、 下妻市長がゼロカーボンシティ宣言について講演しました ～推進員第2回スキルアップ研修会～



1月18日にホテルレイクビュー水戸において2021年度茨城県地球温暖化防止活動推進員第2回スキルアップ研修会を開催しました。この研修会は、昨年11月に開催した第1回スキルアップ研修会に続くもので、活発な意見交換をとおした情報共有と推進員の皆様のスキルアップを目的としたものです。オミクロン株の影響による新型コロナ感染者が増加しているなか、十分な感染対策を講じて開催しました。市町村職員等を含め83名の参加者でした。

第1部 自治体の取組み

講演「気候非常事態宣言と取手市」

取手市長 藤井信吾 氏

最初に、茨城県の玄関口であり、東京藝術大学のキャンパスがあり、アートがあふれるまちづくりを進めているなどの取手市の概要紹介がありました。そして、令和2年8月3日茨城県で初めて表明した「気候非常事態宣言」についての各種対策の説明がありました。

宣言には4つの方針があり、基本方針1の普及・啓発活動では、年3回発行の市政情報誌「葉（ひこばえ）」に宣言について掲載したほか、広報とりでに環境コラムを4回不定期連載、また、3種類の啓発動画を発信しました。昨年は、アルピニストの野口健氏との新春対談を広報とりでに掲載し、対談の一部を動画で紹介いただきました。また、子ども向けの夏休み環境教室、大人向けの市民大学・地球温暖化防止講演会の説明があり、4Rの推進としては、市オリジナルエコバックの作成、生ごみ堆肥化事業、資源物回収助成金の紹介がありました。

基本方針2の取り組みでは、本庁舎及び分庁舎の照明LED化によりCO₂13%削減することや平成24年度に設置した約1万基の防犯灯を令和4年度に更新することによりCO₂26%削減を目指すこと、市公共施設や遊休農地への太陽光発電設備の設置、昨年後半に実施したグリーンスローモビリティの有効性実証事業、市内全域で取り組んでいる緑のカーテン運動など各種の対策を紹介いただきました。



講演「ゼロカーボンシティ宣言」～2050 脱炭素社会を目指す下妻市の取り組み～

下妻市長 菊池博 氏

最初に、市PRビデオ「下妻観光物語」の放映等により、砂沼や小貝川、鬼怒川でのイベントなど自然あふれる下妻市の紹介がありました。

下妻市では、令和3年1月19日に、2050年までに二酸化炭素排出量実質ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ宣言」を表明しました。その対策として、県内初のZEB庁舎建設事業についての説明がありました。令和5年5月開庁予定で、一次エネルギー消費量を25%以下まで削減するニアリーゼブ（Nearly ZEB）の実現をめざしています。具体的には建物の断熱性の向上、高効率な空調設備、LED照明設備などの省エネ、太陽光発電設備及び蓄電池による創エネの導入です。また、令和3年度から、環境配慮型素材の使用を入札の条件にしました。薄肉強化素材を採用し、使用する石油由来原料使用量及び焼却に伴う二酸化炭素排出量を軽減しました。軽量化により輸送に伴う環境コストも軽減、価格も1枚5円から4.2円に下がりました。



続いて、令和3年2月に策定した「下妻市環境アクションプラン」の説明がありました。これは、環境基本計画の基本施策から特に推進すべき課題を重点事業として位置付けし、市民・事業所（団体）・行政が協働して重点事業に取り組むための具体的な行動計画で、砂沼の水質向上と自然環境の保全、地域循環共生圏の実現に向けたバイオマス活用の二つの重点事業についての説明がありました。

最後に、県内初の「下妻市SDGsに基づく持続可能なまちづくり推進条例」について紹介がありました。令和3年6月に制定した基本条例で、基本理念と市の責務、市民の役割が謳われています。「首長として宣言することが大切だと思っている」と話されていました。

第2部 SDGsワークショップ

「SDGs de 地方創生」ゲーム

茨城県地球温暖化防止活動推進員、

SDGs de 地方創生公認ファシリテーター 木次谷光晴 氏

「SDGs de 地方創生」は、地方創生に取り組む日本の自治体や、ソーシャルセクターの具体的なアクションを題材にし、多様なプロジェクトの実行を通じて“行政と市民による協働”を体感できるカードゲームです。地方創生がうまくいっているケースとそうでないケースの間にある違いは何かを考え、アクションする上でのハードルや生じる課題は何かを理解し、参加者一人一人が行動変容を起こすきっかけを提供するものです。茨城県地球温暖化防止活動推進員で公認ファシリテーターの木次谷光晴氏をリーダーに、同じくファシリテーターの阿久津隆男氏、松崎真吾氏の三名でゲームを進めていただきました。参加者も最初は戸惑っていましたが、10分の行動タイムを4ターン繰り返していくに従い活発な議論をするようになっていきました。

